

**医学教育分野別評価 山形大学医学部医学科 年次報告書**  
**2019年度**

評価受審年度 2016（平成28）年

**今後改善が見込まれる項目**

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.1 使命</b>
<b>質的向上のため水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学部医学科の使命に国際保健についての記載を今後検討することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
本学の使命として、国際保健についての記載はなされていなかった。	
<b>今後の計画</b>	
公衆衛生学講座と医療政策学講座が担当するグローバルなレベルでの社会医学に関する教育内容を考慮し、本学の使命として国際保健の記載について及び本学部として国際保健とのあり方について検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.2 使命の策定への参画使命
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
使命（医学部医学科の目的、教育目標など）の策定に職員、学生が参加するシステムを構築すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
山形大学では全学レベルにおいて、各学部の「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」の3つのポリシーを統括した経緯があるが、これらの策定には当該学部以外の教員の意見も取り入れられている。しかし医学部における策定の段階では、教務委員会と教授会が中心に行い、職員や学生が参加するシステムは構築されていなかった。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム検討委員会等の規則の改訂を行い、従来の「カリキュラム検討委員会」を拡大し、教員その他、職員や学生代表を加えることを検討する。また医学部および学外臨床実習の受け入れ病院、山形県で構成される「広域連携臨床実習運営会議」の委員等から、本学の使命（医学部医学科の目的、教育目標など）の策定に関して広く意見を聴取し反映させるシステムを新たに構築する等さまざまなステークホルダーの参画するシステムを構築することを検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.2 使命の策定への参画使命</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
使命（医学部医学科の目的、教育目標など）の策定に広い範囲の教育関係者から意見を聴取する系統的なシステムを構築することが期待される。	
<b>現在の状況</b>	
「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」については、全学の統括教育ディレクター会義等で、「アドミッション・ポリシー」については、全学の入学試験委員会等で医学部以外の教員の意見を取り入れている。	
<b>今後の計画</b>	
医学部および学外臨床実習の受け入れ病院、山形県で構成される「広域連携臨床実習運営会議」等から広く意見を聴取し反映させるシステムの構築を予定している。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.1 カリキュラムモデルと教育方法</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
定められた教育成果を6年一貫教育のなかで具現化されていることを確認すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
定められた教育成果を6年一貫教育のなかで具現化されていることを確認できる効果的手段が構築されていなかった。	
<b>今後の計画</b>	
教育プログラム評価委員会で教育プログラムについてモニタリングを行う。 入学試験検討委員会及び医学部 I R 委員会と協同して、教育成果の務確認方法について検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
課外研究室研修プログラムの成果について単位認定を行うことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
課外研究室研修プログラムは、あくまでも課外に、学生が自主的に参加するプログラムであること。また、現行のカリキュラムでは、殆どの科目が必修であり、選択科目として本プログラムに単位を付与しても他に選択科目が無いため、卒業要件として活用することは困難である。そのため、本プログラムへの参加については、単位認定は行わないが、卒業判定においては考慮することとし、その旨、シラバスに明示している。	
<b>今後の計画</b>	
本学部の教育プログラム評価委員会から、卒業単位に含めることは出来ないと思われるが、単位認定を行うことは可能と思われる旨助言があったことから、今後、カリキュラム検討委員会等で検討予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学および医療倫理学
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>行動科学の教育責任者を決め、低学年から高学年にかけて系統的に学修できるプログラムを策定すべきである。</p> <p>臨床実習期間中にも、臨床の現場で医療倫理を学ぶ機会を充実させるべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>行動科学を扱っている授業科目のシラバスにその旨を明記している。</p> <p>行動科学(Behavioral Science)</p> <p>テーマ</p> <p>行動科学とは人の行動を科学的に研究する分野であり、人の行動の心理的および生理的な機序、人の心理・行動の異常としての精神疾患、さらには相互コミュニケーションとしての患者・医師関係やチーム医療についても学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <p>2年次 人体機能学：高次脳機能（記憶と学習）</p> <p>3年次 臓器疾患学：精神系コース</p> <p>4年次 全身性疾患学・成長・発達・遺伝・発生</p> <p>4年次 全身性疾患学・内科系：精神</p> <p>4、5、6年次 臨床実習：精神科</p> <p>4、5、6年次 臨床実習：産科婦人科</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>行動科学については、本学部の教育プログラム評価委員会から、例えば臓器別コースの中に行動科学の単位を入れることにより、プログラムに組み込むことを検討願いたい旨助言があったことから、今後、カリキュラム検討委員会等で検討予定である。</p> <p>「臨床実習期間中にも、臨床の現場で医療倫理を学ぶ機会を充実させるべきである。」については、現在も各クリニカルクラークシップのフェーズ最終日には、臨床医学の知識をリマインドすることを目的に臨床講義を行っているが、この中に、医療倫理に関する講義を追加する予定である。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事</p>	

## 改善した項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学および医療倫理学
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>現在と将来に社会および医療で必要となること、人口動態および文化の変化を定義し、行動科学、社会医学、医療倫理学の教育内容を検討することが望まれる。</p>	
<b>改善状況</b>	
<p>社会医学においては、4年次の「社会学・医療学（公衆衛生）」の講義で、少子・高齢化という人口動態の変化と、それに伴う社会経済環境の構造的な変化、それらを背景とした医療に対する社会的要請の変化などについて教育するとともに、同じく4年次の「総合医学演習：地域医療学」では、高齢化の進展に合わせて構築が進められている「地域包括ケアシステム」の構造やその中での医師の役割について教育している。</p>	
<p>医療倫理学は、1年次の「スタートアップセミナー」、4年次の「社会医学・医療学（情報処理）」、「総合医学演習：医学・医療原論」の授業にて扱われており、それらの中で、医の倫理や医師の義務と裁量、インフォームドコンセント、医療安全、チーム医療、医療裁判、医療情報の取り扱いや個人情報保護など、医療現場において社会的に重要性を増している事項について教育している。</p>	
<p>なお、本学部医学科学生のキャリア形成の動機付け等を目的に授業の一環として開催しているキャリアパスセミナーにおいて、平成30年度に開催した第3学年を対象にしたセミナーでは、「医師と患者のコミュニケーション」と題して医療倫理学を含めた講演を行った。</p>	
<p>行動科学に関するカリキュラムは、従来から主として精神医学（心療内科を含む）や麻酔科学と関連した緩和医療学の授業の一部として実施されているが、教育内容を定義し、シラバスにも記載している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>示唆頂いた内容について、定期的にかリキュラム検討委員会等でさらに検討し改善して行く。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料2 平成30年度医学科第3年次学生キャリアパスセミナー実施計画書及び日程表</p>	

## 改善した項目

2.教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>1年次から4年次にかけて段階的に患者と接するプログラムを構築すべきである。</p> <p>クリニカルクラークシップにおいて、学生が責任を持ってチーム医療に積極的に参加できるプログラムを構築し、実践すべきである。</p> <p>健康増進と予防医学について臨床実習で学ぶべきである。</p>	
<b>改善状況</b>	
<p>1年次初期に「医学概論」で附属病院施設内の見学を行うとともに、「早期医学・医療体験実習」で救急車搭乗実習（消防署）を体験した後、4年次の「総合医学演習：地域医療学」では、山形県内の3病院にグループに分かれて訪問する地域病院見学実習を行っており、それぞれの病院で、併設する介護施設なども含めて、患者・利用者への対応状況について施設内を見学しながら説明を受ける機会を設けている。</p> <p>クリニカルクラークシップにおける学生のチーム医療への参加を促進するプログラムを整備しており、今後は、それを実行されているか検証する。</p> <p>医療倫理同様に、各クリニカルクラークシップのフェーズ最終日の演習型講義に、健康増進と予防医学について学修する機会を設けている。</p> <p>臨床実習において、予防医学を実践している施設での実習受け入れについて、県医師会を通して打診している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>学生が診療チームの一員としてより積極的に実習を行うには、指導医一人あたりの担当学生数の少ない学外病院での実習が適していると考え、広域連携臨床実習運営会議で、学外病院の実習に於いては「学生が責任を持ってチーム医療に参加する」環境を整備することについて検討する。</p> <p>また、本学部の教育プログラム評価委員会から、本院において、例えば、2年次には病院ボランティアを3日程度行い、3年次には、看護師（助手）に1週間程度付ける等、責任をだんだん重くし、他職種の立場を理解するような取り組みを教務委員会において検討願いたい旨助言があったことから、検討の予定である。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事</p> <p>資料3 広域連携臨床実習の拡充に係る受入診療所等の紹介依頼文書</p>	



## 今後改善が見込まれる項目

<b>2.教育プログラム</b>	<b>2.5 臨床医学と技能</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
全ての学生が早期に患者との接触機会を持ち、段階的に実際の患者診療への参画を深めていくプログラムの構築が望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
1年次初期に「医学概論」で附属病院施設内の見学を行うとともに、「早期医学・医療体験実習」で救急車搭乗実習（消防署）を体験した後、4年次の「総合医学演習：地域医療学」では、山形県内の3病院にグループに分かれて訪問する地域病院見学実習を行っており、それぞれの病院で、併設する介護施設なども含めて、患者・利用者への対応状況について施設内を見学しながら説明を受ける機会を設けている。	
<b>今後の計画</b>	
本学部の教育プログラム評価委員会から、本院において、例えば、2年次には病院ボランティアを3日程度行い、3年次には、看護師（助手）に1週間程度付ける等、責任をだんだん重くし、他職種の立場を理解するような取り組みを教務委員会において検討願いたい旨助言があったことから、検討の予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2.教育プログラム</b>	<b>2.6 カリキュラム構造、構成と教育期間</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
関連する科学・学問領域および課題の水平的統合、基礎医学・行動科学および社会医学と臨床医学の縦断的統合の導入が進められているが、より一層充実させることが期待される。	
<b>現在の状況</b>	
水平的統合としては、臓器別コース（臓器疾患学）の神経コースおよび器官病理コースで行われている基礎臨床水平統合型カリキュラムを、他の臓器別コースにも導入して実施している。病理病態学の中に、発達障害と遺伝性疾患、さらには、遺伝カウンセリングの実際やゲノム医療など遺伝学の基礎と臨床を学修するコースを設けており、病理学講座、遺伝性疾患に関わる臨床各講座（小児科、産婦人科など）、遺伝相談室などが連携して講義を行っている。 縦断的統合としては、公衆衛生学、医療倫理学、EBM 医療（疫学・統計）などの講義を、臨床実習中に低学年で行った内容に比較して、より深く実臨床と関連させた講義を行っている。	
<b>今後の計画</b>	
より一層充実させることについて、カリキュラム検討委員会などで検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

2.教育プログラム	2.7 プログラム管理
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
カリキュラムを作成・実施する委員会に学生が正式メンバーとして関わるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>教務委員会委員長と各学年の学生代表との懇談会を定期的で開催し、教育に関する要望を伝える機会を設けており、平成30年度からは加えて、学年毎に学生（原則全員参加）と学部長・病院長等との懇談会を企画・開催し、各学年の学生からの貴重な意見を授業や学生生活支援等の改善に役立てている。</p> <p>カリキュラム検討委員会の構成員に学生を入れていない。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>本学部の教育プログラム評価委員会から、カリキュラム検討委員会の構成員に学生の代表を入れることについて提案があったことから、今後関係委員会で検討の予定である。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事</p> <p>資料4 学生と学部長・病院長等との懇談会次第（平成30年度開催分）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
カリキュラムを作成・実施する委員会に、学外実習の担当教員や教育に関わる医療専門職代表など、他の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
教務委員会・カリキュラム検討委員会には、他の教育関係者など外部委員は含まれていない。学外臨床実習に関しては、教務委員長、教務委員会臨床実習担当委員、学外実習施設からの実習担当者、山形県からの委員で構成されている広域連携臨床実習運営会議を組織し、学外実習の内容や運営方法、学生および患者の安全にかかわる事項等の検討を行っている。	
<b>今後の計画</b>	
医学部および学外臨床実習の受け入れ病院、山形県で構成される「広域連携臨床実習運営会議」の業務として、「医学部臨床実習カリキュラムに関する検討」を加え、広く意見を聴取し反映させるシステムの構築を予定している。	
また、本学部の教育プログラム評価委員会から、学生と関わっている看護部の代表として看護師長（手術部から1人、病棟から1人）及び薬剤部より薬剤師をカリキュラム検討委員会に含めることを検討願いたい旨助言があったことから、検討の予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事	

## 改善した項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>低学年から医師になるものとしての適切な態度、行動がとれるかの基準を定め、評価してフィードバックするシステムを構築すべきである。</p> <p>臨床実習において、技能・態度をより適切に評価できるよう、mini-CEX や 360 度評価などの臨床現場での形成的評価を積極的に導入すべきである。</p> <p>臨床実習後 OSCE は学生の臨床技能と態度を適正に評価できるよう、実施方法などを十分検討し、実施すべきである。</p>	
<b>改善状況</b>	
<p>医学科 1、2 年生の基礎医学実習や演習時における態度や行動の評価基準を定めたが、まだ運用に至っていない。</p> <p>臨床実習において新しい評価法に対応するため、平成 30 年度も 360 度評価や mini CEX に関する F D 講演会を開催し、実施に向けて準備を行っている。</p> <p>平成 30 年度は全国トライアルに準拠したポストクリニカルクラークシップ OSCE (Post-CC OSCE) を実施した。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>医学科 1、2 年生の基礎医学実習や演習時における態度や行動の評価基準を定め作成した、評価表の運用の検討を進める。</p> <p>臨床実習における新しい評価法の前の段階として、クリニカルクラークシップの各科臨床実習期間中に、他職種からの態度評価の導入の検討を進める。</p> <p>令和元年度は全国トライアルのポストクリニカルクラークシップ OSCE (Post-CC OSCE) を実施する。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料 5 基礎医学実習評価表</p> <p>資料 6 平成30年度開催のFD実施要項（臨床実習の評価）</p> <p>資料 7 平成30年度のPost-CC OSCEの実施概要</p>	

## 改善した項目

<b>3. 学生評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
各教科の評価の信頼性と妥当性を十分に検討する体制を構築することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
教務委員会にて各科試験とその評価について検討を行なっているが、各教科の評価の信頼性と妥当性を十分に検討する体制の構築について検討中である。 平成30年度に、山形大学医学部医学科教育到達目標（コンピテンシー）に基づき、卒業時の学生の臨床能力等に係る到達度を適切に評価できるような卒業試験及び卒業判定方法の見直しを検討し、導入した。	
<b>今後の計画</b>	
教務委員会にて各教科の評価の信頼性と妥当性を十分に検討する体制の構築に向けて検討を進める。 また、各学年の進級に係る学力判定の妥当性を検証するシステムを構築させる。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料8 新卒業試験実施要項	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>山形大学学生が卒業時に修得しているコンピテンス、コンピテンシーを明確に提示し、教育方法および評価と整合性をとるべきである。</p> <p>学生の教育進度の認識と判断を助ける形成的評価をより一層活用すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>山形大学医学部のコンピテンシーに基づき、シラバスに各講義・実習によりコンピテンシーのどの項目が習得できるかを明記している。</p> <p>カリキュラムマップにより、学生および教員の教育進度とその判断が容易に認識できている。</p> <p>臓器疾患学（3年）及び全身性疾患学（3～4年）については、コースの途中で形成的評価のための試験を行い、講座としてコンピテンシーについての度合を評価し、学生および担当教員にフィードバックを行っている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>各講義及び演習の途中で形成的評価を行う機会を設けることを基本方針として、その検討を進める。</p> <p>新しい臨床実習の評価法などについてその妥当性などについて教務委員会において検討を進める。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.1 入学方針と入学選抜</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
卒業時に期待される能力と選抜プロセスとの関係を構築することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
山形大学医学部医学科卒業時コンピテンシーに基づいた、そこで求められる各能力と選抜プロセスの関係の構築について検討している。	
<b>今後の計画</b>	
山形大学医学部医学科卒業時コンピテンシーに基づいた、そこで求められる各能力と選抜プロセスの関係の構築については、入学試験検討委員会と教務委員会にて行う予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	



## 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
アドバイザー教員制度の機能を発揮するため、さらなる充実が望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>各学年にアドバイザーを配置しているが、1～2年次は主に基礎医学系教員、3～6年次は主に臨床医学系教員がアドバイザーになっており、学生にとって比較的身近な教員が対応し、また、目の届きやすい体制にある。アドバイザーは学生の成績や進級、生活上の悩みなどについて、必要に応じてカウンセリングを行っている。カウンセリングに関しては特別な手続きは必要とせず、学務課が日程を調整し実施している。</p> <p>平成30年度から、他学年と比較して留年が多い2年生のアドバイザー教員を増やしている。</p> <p>アドバイザーだけでは解決が困難な場合や全体での対応が必要な場合は、教務委員会や厚生委員会で協議し教員間で情報共有を図り対応している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>比較的身近な教員がアドバイザーになるよう担当を決めてはいるものの、それでもまだ学生にとっては相談に行く際の心理的障壁が高い可能性があることから、多くの学生にとってより身近な存在である部活動の顧問を相談窓口としてアドバイザーに加えるプランについても検討を行う。</p> <p>アドバイザーを一次アドバイザー（相談窓口、二次アドバイザーへの振り分け）、二次アドバイザー（相談内容に応じて原則教務委員、厚生委員が担当。場合によっては委員以外の教員や専門家[学生相談室も含む]に依頼も）に分けるなど、より身近でよりカウンセリング機能の高いアドバイザーシステムとなるような制度改革を今後進めていく予定である。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の教育への参画
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>教育プログラムの作成・評価などに関して、学生がカリキュラムの作成、運営、評価やその他学生に関連する委員会などに正式メンバーとして参加し、直接意見を述べるができるよう規定に明示し、学生の参加を保障すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>教務委員会委員長と各学年の学生代表との懇談会を定期的に行い、教育に関する要望を学生から教員へ伝える機会を設けており、平成30年度からは学年毎に学生（原則全員参加）と学部長・病院長等との懇談会を企画・開催し、各学年の学生からの貴重な意見を授業や学生生活支援等の改善に役立てている。</p> <p>カリキュラム検討委員会の構成員に学生を入れていない。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>本学部の教育プログラム評価委員会から、カリキュラム検討委員会の構成員に学生の代表を入れることについて提案があったことから、今後関係委員会で検討の予定である。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事</p> <p>資料4 学生と学部長・病院長等との懇談会次第（平成30年度開催分）</p>	

## 改善した項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
行動科学の教育責任者を確保すべきである。	
<b>改善状況</b>	
<p>山形大学では講座名として「行動科学講座」を有していない。この点については、本学での開設時及びそれ以降における所轄官庁である文科省の定期的な監査を受けて了解されている。しかし、実質的な「行動科学」の履修については、精神科を中心に主に講義の中で実施していた。また一部は総合医学演習：医学・医療原論の中でも触れている。</p> <p>2018年度シラバス（授業科目）から、行動科学を新設し、個々の科目にも行動科学の内容を記載した。</p> <p>平成30年年度から、それに基づき、授業を展開している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
専任ではないが、担当をきちんと決めて、教育内容について責任を持って検討し、学生を教育する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料9 2018シラバス（授業計画）（P125）	

## 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発に関する方針
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>FDなどを活用し、全教員がカリキュラムの全体像を理解すべきである。          教員の業績評価において、教育業績や教育能力をより適正に評価すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>教員向け、特に若手教員向けのFDとしての試験問題の作問や共用試験についての理解を深めることに重点を置かれている山形大学医学教育ワークショップを毎年開催しているほか、臨床実習、コンピテンシーなどを用いたカリキュラム作成、特別講義、コンピテンシーなど、その時点でアップデートが必要な項目について教務委員会が必要に応じてFDを開催する体制を整えている。</p> <p>教員の業績評価については、第三者、学生による評価を取り入れた評価方法を取り入れている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>全教員が改めてカリキュラムの全体像を理解できようなFDの企画について、教務委員会で検討予定。</p> <p>教育業績や能力の適正評価のため、現行の学生評価、第三者教員によるピアレビューの取り組みをさらに進め、そのフィードバックを適切に図る。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料 6 平成30年度開催のFD実施要項（臨床実習の評価）          資料 10 平成30年度開催の医学教育ワークショップ実施要項</p>	

## 改善した項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
施設の老朽化および留年生の増加による相対的スペース狭小化について、適切に対処されるべきである。	
<b>改善状況</b>	
<p>老朽化した職員宿舎の環境改善にむけて、適宜、修繕を行うと同時に、築年数を考慮して、新宿舍建設の要望書を、優先順位を考慮しながら、平成21年度から毎年、提出している。</p> <p>講義室、実習室、グループ学習室の拡張改修、新設の予算申請措置は行われていないが、附属図書館施設、RIセンター、動物実験施設、遺伝子実験施設の改修、新築を計画中で、これに伴い、講義室、学習スペースの新規スペースの確保が見込まれる。</p> <p>平成30年度に共用スペースの有効活用等により、グループ学習室をはじめ、自習室、食事や休憩、学習等多目的に利用可能なフリースペースの拡充を行い、翌年度から運用している。</p> <p>また、従来から利用している附属病院にある Student Doctor 用の学生実習室に学生用の医療情報システムの端末を増設し、効果的な学習の一助とした。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>附属病院施設のカンファレンスルーム、会議室等の有効活用、利用効率の向上を図ることによって、相対的に狭小化した学習スペースへの対応について検討を進める。</p> <p>現在利用している医学部附属病院に加え、メディカルサイエンス推進研究所、総合医学教育センター、医学部がんセンターの学生教育における発展的活用の検討を進める。さらに来年度完成予定のがん重粒子線臨床研究施設の有効活用もスペース狭小化への対応可能な方法として検討予定。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1 1 グループ学習室、自習室、フリースペース関係資料</p> <p>資料1 2 学生実習用JUHYO端末の増設について</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：適合	
<b>改善のための示唆</b>	
今後必要となる新たな教育手法に対応する教育施設拡充計画を策定していくことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>学内の教育施設の整備状況は、講義室、実習室、CBT 室、グループ学習室、教育支援センター、メディカルスキルアップラボラトリー、附属図書館施設、RI センター、動物実験施設、遺伝子実験施設、附属病院、メディカルサイエンス推進研究所、総合医学教育センター、医学部がんセンターとなっている。</p> <p>平成30年度に、卒後臨床研修医の臨床トレーニングを目的とした各科管理のシミュレーター等を充実させ、卒前教育にも活用している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>附属図書館再整備計画、RI センター、動物実験施設、遺伝子実験施設の複合的再整備の計画が進められており、さらにはがん重粒子線臨床研究施設の建設が推進されている。医学部の研究の中核と位置づけられているがん治療、ゲノムコホート研究とも連動しながら、また、附属病院、メディカルサイエンス推進研究所、総合医学教育センター、医学部がんセンター施設のより有効な活用とあわせて、教育施設の拡充を進める。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>経験すべき症例の数やカテゴリーを明確にし、全学生に十分な臨床経験を積ませるよう臨床トレーニング施設をより充実させるべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>山形大学医学部コンピテンシー及びモデル・コア・カリキュラムをもとに、臨床実習で経験すべきカテゴリーと担当診療科を定めてまとめた冊子「臨床実習の記録」を実習開始前に学生に配付し、実習期間中の臨床経験を記録するよう指導している。</p> <p>学生からの要望があり、可能な範囲でメディカルスキルアップラボラトリーをオープンに使えるようにした。</p> <p>ただし、メディカルスキルアップラボラトリーは場所が狭く、設置する場所が無いことから、各科管理のものが多い。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>広い施設で、病院の教育用の共通機器として一層の整備を図ることを検討する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>無し。</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>学内外臨床実習施設での学生の学修効果を測定し、臨床トレーニング用施設としての評価を行うことが望まれる。</p> <p>メディカルスキルアップラボラトリーの定期的利用を促すカリキュラム構築が望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>臨床実習期間中の学習効果客観的評価を行っていないため、臨床トレーニング用施設の適切な評価は行われていない。</p> <p>各科の臨床実習におけるメディカルスキルアップラボラトリーの利用状況について、十分に把握していない。</p> <p>学生からの要望があり、可能な範囲でメディカルスキルアップラボラトリーをオープンに使えるようにした。</p> <p>ただし、メディカルスキルアップラボラトリーは場所が狭く、設置する場所が無いことから、各科管理のことが多い。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>Primary OSCE の結果及び今後導入予定の 360 度評価、miniCEX による評価、Post-CC OSCE の結果を解析することで、臨床トレーニング用施設の効果について評価を行うことが可能となる。</p> <p>臨床実習期間中の各科における利用状況を把握したうえで、各診療科でのメディカルスキルアップラボラトリー利用を促進するカリキュラムを策定すると共に、広い施設で、病院の教育用の共通機器として一層の整備を図ることを検討する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	



## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
e-learning のコンテンツの充実や利便性を高める工夫をすべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>e-learning 実施について、本学部では、メディアサイト社の映像収録・配信・管理システムを導入しているが、実際に同社のシステムを用いて配信されている講義は2年次「基礎腫瘍学」と4年次「総合医学演習：臨床腫瘍学（の腫瘍生物学）」のみである。また、1年次に実施される講義シリーズ「医学概論」は、収録は行われているものの配信はされていない。大学院では e-learning を実施している。</p> <p>e-learning 配信が行われない主な理由として、「配信に必要な機器や管理のコスト」、「講義収録、配信に必要な人材の確保が困難」及び「著作権の問題」が挙げられる。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>配信に必要な機器や管理のコストに関しては、現行のメディアサイト社の機器、管理費等は高額であり、全教室に導入することは予算的に非常に厳しい状況であるため、同社の機器によらない、山形大学医学部独自の低コストで簡便な映像収録配信システムの構築を検討する。</p> <p>講義収録、配信に必要な人材の確保が困難であることについて、メディカルサイエンス推進研究所所属の技術職員のエフォートに収録配信対応を加えることでの対応を引き続き継続する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
教育成果を高めるため、ICT 環境を充実させることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
全講義の e-learning 化を行う場合に必要とされるだけの配信装置を有していない。また、学生が使用可能な PC は医学部図書館、情報基盤センター飯田分室に配備されてはいるものの、学生の需要に応え切れておらず飽和状態となっている。	
<b>今後の計画</b>	
映像収録配信装置についてはコストをかけず収録講義数を増やすため、山形大学医学部独自の収録配信システムを検討し、低コストで簡便な映像収録配信システムを構築する。 また、学生が使用する PC については、医学部図書館ならびに情報基盤センター飯田分室に設置する PC 数を増やす方針の決定に基づき、整備を進める。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 改善した項目

6. 教育資源	6.5 教育の専門的立場
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学教育関連の業務量増加と質の変化に対応し、学内外の教育専門家を活用することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
<p>山形大学では全学的な組織として教育ディレクター制度を採用して、教育の専門家から学部の垣根を越えて適切な助言や監査を受けるシステムを構築していた。さらに、学外の外部教育専門家によるアドバイザー評価を受け、教育という専門見地から学部教育が適切に運営されているかについて評価を受けてきた。医学部医学科としても、野外セミナーなどの機会に他学の医学教育専門家による講演などを通じて医学教育の改善を図っている。</p> <p>臨床実習において新しい評価法に対応するため、平成30年度も360度評価やmini CEXに関するFD講演会（学外の専門家が講師）を開催し、実施に向けて準備を行っている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>OSCE や CBT 等の共用試験実施評価機構等の主催する講習会に参加する若手教員の数を増加させる。</p> <p>医学教育についての外部教育機関主催のFDに参加する教員の数を増加させる。</p> <p>本学の教員全体にアップデートが必要な項目については、外部の医学教育専門家を講師に招き、FD講演会等を開催することによる学外リソースの積極的な利用を図ることを検討する。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料6 平成30年度開催のFD実施要項（臨床実習の評価）	

## 改善した項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
多くの学生が海外での学修体験を積めるよう、国際交流を促進すべきである。	
<b>改善状況</b>	
<p>海外の大学との人的交流は行われているが、学生の履修単位互換はなされていない</p> <p>当該診療科のクリニカルクラークシップを選択した学生に対し、海外での学習の希望を確認している。また、クリニカルクラークシップ選択前に、海外での学習の希望があれば面接の上認めることを学生に周知した。</p> <p>韓国の延世大学で、重粒子線治療装置山形モデルの導入を決定し、同大学から昨年、本学部に最高幹部の来訪があり、重粒子線治療に向けての協力依頼があった際に、重粒子線治療だけではなく、教育・研究における協力関係の構築や教職員・学生の交流を含む包括的な国際交流協定を締結する運びとなり、延世大学の重粒子線治療に関わる包括的国際交流協定を締結した。</p> <p>教務委員会において、延世大学との学士レベルでの交流（学生の受入及び派遣）について検討を開始した。</p>	
<b>今後の計画</b>	
延世大学との学士レベルでの交流（学生の受入及び派遣）については、教務委員会にワーキンググループを設置して、継続的に検討をすすめ、派遣については、2020年4月からの派遣開始を目指す。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料13 国際交流協定に基づく学生交流プログラム検討ワーキング (平成31年2月19日) 議事	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.6 教育の交流</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
海外施設との交流を充実させるために、さらなる支援が望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
海外からの交流者の便宜をはかるために、医学部敷地内に宿泊施設を1室用意している。	
<b>今後の計画</b>	
医学部敷地内の宿泊施設の増室や、家族で来日を希望している海外教員のための宿泊施設を検討している。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 改善した項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
プログラム評価によって特定された課題を検討し、カリキュラム改善に確実に反映させるべきである。	
<b>改善状況</b>	
<p>学部内における教育カリキュラムに関する事項は、教務委員会で審議後、教授会で審議・決定し、医学部長の責任において実行、検証されている。カリキュラムにおける教育プロセスと成果に関しては月1回開催される教務委員会において適宜検討され、それらの検討結果は、年一回のシラバス編成時期に集約され、カリキュラムにフィードバックされている。</p>	
<p>医学部教育プログラム評価委員会において、カリキュラムや教育成果のモニタリングを行っている。同委員会は教務委員会構成員を除く医学系研究科主担当教員と教務委員会委員長経験者を含むものから構成され、教務委員会とは独立した組織としている。山形大学医学部教育プログラム評価委員会においてカリキュラム上での課題を特定し、カリキュラム改善へ反映されたかモニタリングを行い課題の解決を図っている。</p>	
<p>学部外では、教育プログラムについて、カリキュラム・チェックリストにより検証し、副学長に申請。副学長特別補佐による教育プログラム検証により、助言を毎年取り入れるシステムが構築されている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
学部内外におけるプログラム評価によって特定された課題を検討し、カリキュラム改善に反映させる。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料14 教育プログラム申請にかかるカリキュラム・チェックリストの作成及び教育プログラム検証	

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>医学科の教学 IR の活動により、プログラムを包括的に評価することが望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>学内 IR を利用し、医学科では医学部教務委員会を中心として、CBT・OSCE・国家試験の成績等をモニタリングすることで教育の全体的成果を常に評価していたが、医学科の IR 機能は整備されていなかった。</p> <p>医学部教務委員会では上記のごとく学内 IR の活用を行ってきたが、山形大学医学部 IR 委員会を設置し、CBT・OSCE・国家試験の成績と4年次移行試験、6年次卒業試験の成績等を包括的に検討し、適切なプログラムが実施されているか否かを評価することとした。</p> <p>またそのデータを随時、入試検討委員会、入試特別委員会、教務委員会、教育プログラム評価委員会等に提供することとした。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>設置された医学部 IR 委員会を開催し、プログラムの包括的な評価を行うことについて検討を開始する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>無し。</p>	

## 改善した項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>カリキュラム検討委員だけでなく、多くの教員から医学部教育に関する幅広いフィードバックを系統的に求め、分析し、対応する体制を構築し、実践すべきである。</p> <p>学生から広くカリキュラムに関するフィードバックを収集し、それを分析すべきである。</p>	
<b>改善状況</b>	
<p>講義内容等について、カリキュラム検討委員会構成員の教員からのフィードバックを受けている。</p> <p>カリキュラム検討委員会に属さない学外実習先の指導医からの意見を収集し、臨床実習の改善に活用している。</p> <p>山形大学全学部の教員で構成される教育ディレクター会議において、医学部教育に関するフィードバックを受けている。</p> <p>学生からフィードバックを収集する機会として、教務委員会委員長と各学年の学生代表との懇談会を定期的で開催し、教育等に関する要望を受ける機会を設けており、平成30年度からは加えて、学年毎に学生（原則全員参加）と学部長・病院長等との懇談会を企画・開催し、各学年の学生から広くカリキュラム等に関するフィードバックも収集し貴重な意見を授業等の改善に役立てている。</p> <p>カリキュラムをモニタリングする委員会としての教育プログラム評価委員会では教職員および管理統轄に関与するものが参加している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>本学部の教育プログラム評価委員会から、カリキュラム検討委員会の構成員に学生の代表を入れることについて提案があったことから、今後関係委員会で検討の予定である。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1 山形大学医学部教育プログラム評価委員会（平成31年3月13日開催）議事</p> <p>資料4 学生と学部長・病院長等との懇談会次第（平成30年度開催分）</p>	



## 改善した項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
教育プログラムに関する情報を系統的に解析し、プログラム改善に利用することが望まれる。	
<b>改善状況</b>	
<p>教務委員会およびカリキュラム検討委員会が、プログラム（カリキュラム）の改変が必要と思われる項目に関して、教員および学生の意見を求め、その結果を踏まえてプログラム開発、改変が行われている。</p> <p>教育プログラム評価委員会の助言により、カリキュラムの妥当性を評価し、評価のためのデータは学内 IR 委員会より提供を受けている。</p> <p>学部外では、教育プログラムについて、カリキュラム・チェックリストにより検証し、副学長に申請。副学長特別補佐による教育プログラム検証により、助言を毎年取り入れるシステムが構築されている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
統括教育ディレクター会議や外部専門家による評価を得て改善に利用することを一層推進する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料 1 4 教育プログラム申請にかかるカリキュラム・チェックリストの作成及び教育プログラム検証	

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>新設された山形大学医学部 IR 委員会が主体となって、卒業生の実績・業績を系統的、継続的に分析し、関連する委員会などに提供して教育改善に活用すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>学生の業績・卒業生の国家試験の評価は学内の IR 機能を用いて行われてきたが、医学部教務委員会内、入試検討委員会内での評価であった。現在は医学部 IR 委員会で評価したデータを教務委員会、入試検討委員会の他、カリキュラム検討委員会等に提供するシステムを構築した。</p> <p>同窓会「蔵王会」の活動から卒業生の実績・業績に関するデータ〔初期研修医としての就職先、年度毎の学位取得者数、医学会と蔵王会賞の受賞者、全国及び海外の大学教授、保健所長や官立病院の院長職などにある卒業生〕を整理している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>蔵王会の活動と山形大学全学の IR 部門で把握した卒業生の実績・業績（職業選択に関する情報、卒業後や昇進後の臨床診療における実績など）の情報をもとに、これらと連携しながら、医学部 IR 委員会が主体となって、卒業生の実績・業績を系統的、継続的に分析し、関連委員会などに提供する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>新設された山形大学医学部 IR 委員会が主体となって学生と卒業生の業績を系統的、継続的に分析し、その分析結果を入試委員会、カリキュラムの作成・実施に関する委員会、学生支援の委員会に提供して教育の改善に活用することが望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>学生の業績は主に臨床実習開始前共用試験（CBT、OSCE）の成績、留年率等で評価を行い、卒業生の評価は主に国家試験の成績、初期研修の勤務先等で行っている。</p> <p>これは教務委員会・入試検討委員会が必要に応じて、学内の IR 機能を用い調査を行い、カリキュラムの作成、入試方法の決定等にフィードバックしてきたものである。</p> <p>医学部 IR 委員会により、学生と卒業生の業績を系統的、継続的に分析することが可能となっている。</p> <p>得られたデータの詳細な分析を行い、カリキュラム検討委員会、教務委員会、プログラム評価委員会、入試検討委員会、入試特別委員会等にデータを提供することも可能となっている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>医学部 IR 委員会により、学生と卒業生の業績を系統的、継続的に分析していく。</p> <p>得られたデータの詳細な分析を行い、カリキュラム検討委員会、教務委員会、プログラム評価委員会、入試検討委員会、入試特別委員会等にデータを提供していく。</p> <p>医師国家試験・臨床研修以降の卒業生の業績に関しては、同窓会組織蔵王会等からのデータ提供、山形大学エンロールメント・マネジメント部と共同しての山形大学卒業生のデータ共有等を進めていく予定である。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の協働者の関与
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
教育プログラム評価委員会に、学生および統轄と管理に関するものを参加させるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
プログラム評価の部分はカリキュラム検討委員会で一部行っており、そちらには学生の参画を検討中。統括と管理に関するものは教育プログラム評価委員会に参画している。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム検討委員会等の規則の改訂を行い、従来の「カリキュラム検討委員会」を拡大し、教員の他、職員や学生代表を加えることを検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>9. 継続的改良</b>	
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
医学教育プログラム評価委員が中心となって定期的にプログラムを評価し、継続的な改良を進めるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>カリキュラムを含む教育プログラムの作成、実施、評価を一つの委員会である教務委員会（とその連携組織であるカリキュラム検討委員会）で行っており、医学科の教学 IR 機能については、各委員会がそれぞれ必要に応じて独自に IR を行っていたが、カリキュラムを含む教育プログラムのモニタリング、評価を行う独立委員会として設置した山形大学医学部教育プログラム評価委員会に、更に、その評価結果についても適切な方法で公表し、必要に応じて協働者などからの助言をえる役割も加えている。</p> <p>また、医学科の教学 IR 機能の充実に関しては、医学部で統一した IR 組織として設置した山形大学医学部 IR 委員会において、全学の IR 組織と連携を取りながら、教育プログラムおよび入学試験から学生支援の評価、改善などに活用することとする。</p>	
<b>今後の計画</b>	
医学部教育プログラム評価委員が中心となって定期的にプログラムを評価するとともに、医学部 IR 委員会を開催し連携することにより、継続的な改良を進める。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	